

## 決算の議会

今回の9月議会は「決算の議会」と呼ばれています。コロナの影響で市の財政は非常に厳しい状態になっています。ただでさえ、「経常収支比率」が高いのに、大型事業を同時並行で進めてきたツケが一気に出てきた!! そんな状態です。

来年度予算に関しては**25億も足りない**と財政部は見ています。当然ですが、市からの補助金のカットや不要不急の事業は凍結されるでしょう。そして、「子ども医療費の助成」にも変化があるかも知れません。現在の**18歳までの助成が15歳まで**になる可能性を示したのです。

これは子育て世代にとっては大きな痛手になるでしょう。年齢でカットするのか、収入でカットするのか、ハッキリしたことはまだわかりません。どう考えていくのか、議論する必要があります。

そんな中、僕の一般質問の通告は12項目の予定です。



控え室に行くと、本会議の前にトレーニングをします。この夏、殆ど鍛えることをしてなかったので、気が付いたら体温が35度台に下がっていました。体温を36度台に上げて、抵抗力をつける為にもこれから本格的に鍛えようと思います。

脳みそも筋肉も鍛えないと、衰えていくんですねえ。心と体のストレッチも忘れずに行きましょう。



2020年8月31日発行



ジムに行くと、いい体をした五中の卒業生達とバッタリ! 右から次郎、亮太、大樹です。

## たかやんのプロフィール



1954年東京生まれ  
本名たかむらともや  
新宿区立西戸山中  
石神井高、北海道大  
庭球部卒。大学3年  
の冬、突然「教師に  
なる」と決め、そこ  
から単位を取り始める。採用試験には楽勝で合格するも大学の単位が取れず、先生に「あの連絡船に乗らないと・・・子どもたちが待っているんです!」「卒論は必ず出します!」と訴え、何とか卒業させて貰う。

勿論、卒論は未だに出していない・・・。  
先生・・・ごめんなさい。

新設校の五中では10年間、本当になんでも「自由」にやらせてもらう。そのまま五中ルールを六中に持ち込み「高邑が六中を壊した」と言われるくらい、学校の校則を無視し、「自由」な学校にしてしまった。

そして、二中では余りにも管理的な学校に嫌気がさして退職。「半沢直樹」ではないが、辞表を叩きつけて・・・21年間の僕の教員生活は終わった。

写真は高2の娘とのツーショット。



## ③ 管内閣

「自助」「共助」「公助」を掲げる人が総理大臣になってしまいました。消費税増税とコロナ禍で苦しむ人が生きるか死ぬかのこの時代に「自助」はねえだろうが！！という声があちこちから聞こえてきます。

多くの国民にとっては「悪夢の安倍政権」だったので、それを受け継ぐという事は、これからも「デフレなのに緊縮財政」という間違った経済対策が続き、多くの国民の「実質賃金」が下がり「非正規雇用」が更に増え、若い人たちが「結婚できず」少子化が進んで、更に生き辛い時代になっていくということです。

携帯料金の値下げなどという言葉に騙されてはいけません。

安倍政権はあろうことか日本の農業や水道まで、外資を含む「多国籍企業」が参入しやすいように「規制改革」をしてきました。それを更に進めるという事は、「農薬たっぷりの遺伝子組み換えの米」が日本中に出回る可能性が高くなるということです。どこを捻っても美味しい水が出る、日本の水道が「外資系」の水メジャーに乗っ取られ、水道の質が悪くなり、水道料金がとんでも無く上がる可能性だってあるのです。「食糧」や「水」を民間企業、それも中国を含む外資系企業に委ねるなど、考えただけでもぞっとします。

「食糧」や「水」は国民の安全保障の問題でしょう。それを多国籍企業の儲けの対象にしていい訳がないのです。



同じ年代の仲間達とのテニスは最高です。右からゆきさん、ちゃーちゃん、半ちゃん。隣の半ちゃんは師匠であり、ライバルです。

## ③ 真夜中の語り

「たかやん、これから行ってもいい？」『いいよ。』『もう11時半だよ』『いつものことじゃん』『じゃ、アチャと行くから』『OK』

大力とアチャが来たのは1時近くだった。「ごめ一ん、チャリで来たから…鬼漕ぎで来たんだよ」『鬼漕ぎでねえ…』『お久しぶりです』とアチャ。『おう…』夜中の3時を過ぎ…教育から人生、そして恋愛へ…『いいね、いいね。みんな春だねえ！！』『けっ、誰が春だっけ？』『あれ？』『真冬よ真冬』『冬があるから春が来る訳よ。ねえ。』『…』『俺は1年中春だけだよ。』『勝手にしやがれ！』『しっ！隣でお袋が寝てるんだから。静かに騒ごうぜ…』『OK』大力はテニスクラブのコーチ。アチャは東大の3年生で同じクラブでアルバイトコーチをしている。「時給1000円すよ」とアチャ。『俺なんか、4時間で750円だぜ。』『げっ、それを考えると貰いすぎか』『お金じゃないからね。昔なんか、時給38円だったぜ。』『…』『子ども達にテニスを教える喜びってやつは金じゃ買えないってことよ。』『ですねえ。』『今日の練習、あれいいだろ？さっき考え付いたんだぜ。』『うん。凄いい…』日曜日の午後、ふと思いついた練習があったのだ。そういうオリジナルを考え付いた日は、一日気分がいい訳で…子ども達の楽しそうで真剣な顔が頭に浮かんできて幸せを感じてしまうのだ。

大力は六中テニス部の熱血ボーイ。1年生の冬、39度の熱を出して、「朝練休みます」と電話をくれた大力に『俺は昨夜41度あったけど、これから行くぜ…』と言うと、「俺も行きまます！」と朝練に来た男。顧問がバカだと部員もバカ…。アチャも同じ六中テニス部で厳しい練習に耐えながら学年1位を通した男です。顧問(担任)と定期テストで競い、一度も俺に負けなかった男。何度1点差で負けたことか…488点と487点というハイレベルの戦いでした。中学生にとって、僕は結構いい目標だったみたいですね。

若い先生へのメッセージ834弾！  
(昔々の新座六中時代の学級通信から…)

